

英國
初學子教育條例

九

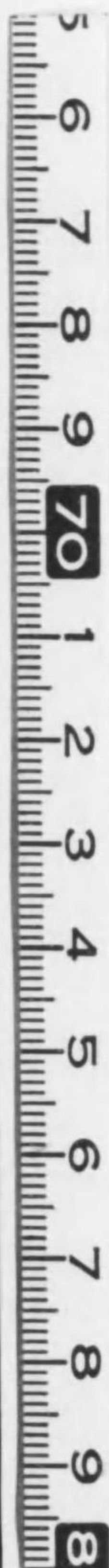
特279-308



1200501132336

279

308



始



特279

308

一千八百七十二年制定統學院手簿法則書

緒言

第一條 大不列顛國定法每年上下會院ヨリ教育上所要ニ應シ若干ノ金額ヲ贈附ス

第二條 右ノ金額ハ統學院ニ於テ適宜ニ之ヲ処分ス

第三條 此ノ金額交附ノ目途ハ一定ノ約束ヲ以テ左ノ二學校ヲ維持シ地方ノ力ヲ補スルカ為メナリ

初學々校即童児ノ為ニ設クルモノ

元手簿法則書

上下會院ヨリ教

附ス

ルテ適宜ニ之ヲ

ハ一定ノ約束ヲ

ノ力ヲ補スルカ

ルモノ

裁

此ノ一冊は教育雜誌
の記述也

師範學校即教官ノ為ニ設クルモノ

第四條 初學々校ハ專テ初學統一ノ教育ヲ授クル所ノモノニシテ各生徒ヨリ納ムル所ノ受業料一週間ニ付キ九月ニニ上ニ過キサルヲ法トス改ニ之ニ過クルモノハ限外タリ

一千八百七十年發行初學教育條例第三章ヲ見ルヘシ

初學教育條例中所說ノ初學々校ナルモノハ一千八百七十年改正法則ニ明ニスル所ノ學校ニシテ即童兒タル者尺晝間而已出校ニ業

ヲ受クルモノタリ而シテ現今ノ學校條例ニ依レハ童兒自費ヲ以テ養育教授ヲ受クル所ニシテ且ツ乘船術演習學校ヲモ亦此中ニアリトス但一千八百七十年改革法則中第六條ハ削除スヘキモノニシテ此助金ヲ與フルノ目途ハ兒童ノ專ラ動競自活スル所ノ徒ヲ教育スルカ為ニスルモノナリ

第五條 學校ヲ維持スル所ノ補助金ハ毎年學校幹事ニ付與ス而シテ此補助金ハ生徒ノ出校及ヒ進歩教官ノ學識學校ノ景況ニ関シテ多少

アルヘキモフトス
 第六條 一千八百七十年発行初學教育條例中
 所載ノ公立初學々校ニ非ラザルモノハ此助金
 ヲ與ヘズ
 第七條 宗旨ノ趣旨ニ關スル凡ハ教育ノ為メ
 扶助金ヲ與ヘズ
 第八條 助金給與ノ事ニ付キ確ク約束守リ且
 各地學校學業ノ成否ヲ検査シ之ヲ統學院ニ上
 申セニカ為メ別ニ官吏ヲ用ユルヲ得ヘシ
 第九條 此官吏ハ即統學院ノ舉薦ヲ以テ女王

ノ命スル所ノ監察官是ナリ但シ時ニ臨ニ統學
 院ヨリ直ニ監察輔任トシテ命スルヲアリトス
 第十條 監察官ヨリ小學校助金給與上ノ規則
 ヲ定メ之ヲ上申セサル以上ハ敢テ助金ヲ附與
 セス而シテ其監察官ノ生徒ノ出校進歩等ヲ檢
 査スルハ必シモ親ラ之ヲ做スヲ要セス所謂輔
 官ニ委任スルモ可ナリ
 第十一條 所謂小學校ニ助金ヲ給與スル時ニ
 臨ニテハ統學院ヨリ其學校幹吏ニ布令シ何月
 ヲ以テ監察官例年ノ巡視ヲ做スヘキヲ報知ス

但此報知ヲ做サ、ル片ハ例月例日ナルヘキモ
ノト視為シテ可ナリ若シ又例月ナラスシテ右
報知ヲ做ス片ハ必ス其期ニ逼ラサルニ及テ報
スヘキモノトス
第十二條 盖右ノ外平時公立初學々校ヲ巡視
スルハ必シモ預メ報知スルヲ用井ス
第十三條 又右助金ヲ交附スルハ毎年一回ニ
之ヲ做ス且例ニ監察官例年巡視月ノ前月三十
一日ヨリ前十二日間ニ於テス
第十四條 盖議院ヨリ此助金ヲ受クルハ一般

ノ常法トシ視ルヘキニアラス只請願ニ由テ得
ヘキハ則チ得而シテ其願書ハ先ツ南西地方口
ニドシ「府」ホワイトホール街統學院書記官ニ向テ願出
スルヲ法トス
是ニ於テ其真實如何ニ應シ該院ヨリ命令スル
所アルヘシ
第十五條 學校幹事ハ統學院通報事務ヲ任セ
シムヘキモノトス而シテ其職ヲ免スル片ハ則
チ之カ報告ヲナス
教官ハ其學校ニ於テ幹事ヲ兼勤スルヲ得ズ通

報事務ノ如キ固リ然リ

第一篇

初學々校建築助金ノ事

建築助金

第十六條 一千八百七十年制定初學教育條例
第九十六章ニ據ルニ一千八百七十一年三月三
十一日以後ハ此條例中ノ公立初學々校ニ非ラ
サルモノハ何校トナク議院ヨリ助金ヲ與ヘサ
ルヲ法トス
又統學院ヨリ此請願ヲ決定スル為メ所要ノ報

告ヲ記載シ且一千八百七十年十二月三十一日

以前該院ヘ送致スル所ノ有印記簿ニ依テ處分

スルモノニアラサレハ其學校ノ建築盛大進步

供給等ノ為メ議院ヨリ助金ヲ與フ可カラス

右ノ約束ニ隨ヒ建築助金スルノ法ハ一千八百

七十年発行ノ法則書中ニアルモノニシテ今其

條款ヲ撮テ本書第三條附加條例ニ示ス

第二篇

例歳給與金ノ事

第一 初學々校

第一章

豫定規則

第十七條 統學院ニ於テハ學校ニ寄附スヘキ
給與金ヲ交付スル以前ニ方リ必ス先ツ次條ニ
記載スル所ノ數款ヲ認知スヘシ(第四條ヲ併看
スヘシ

(d) 此學校ハ之ヲ公立初學々校トシテ管理スヘ
シ(第六條ヲ看ヨ)而シテ如何ナル兒童タリ凡果
シテ的當ナル道理緣故アルニ非サレハ其入學
スルヲ拒絶スヘカラサル丁

(b) 此學校ハ私利ヲ謀營スルカ為ニ設立セシモ
ノニアラサル丁

(c) 學校ノ土地ハ清潔乾燥ニシテ人身ノ健康ニ
適シ且空氣ノ善ク流通スヘキ処ヲ撰用スヘシ
註解ヲ而シテ其講學堂ハ狹少ナルモ内部ニ於
見ヨテ八十立方尺ノ物ヲ容ル、ニ足ラシムヘシ通
常ノ學室及ヒ各級生徒ノ室ノ如キハ其出坐ス
ヘキ額數ヲ概算シ一生徒每ニ八平方尺ヲ附與
セサルヘカラサル丁

凡ソ學校中ノ廁所ハ學校ニ出席スル兒童ノ

為メ特ニ建築セシモノニアラサレハ之ヲシテ適宜ノ廁所ト看做スヘカラス且七歳以上ノ兒童ヲ教授スル混合學校ニ於テハ必ス男女ヲ區分シ其學室ノ如キモ亦之ヲ離隔シソレヲシテ決シテ接近スルコトヲ得サラシムヘシ(一千八百七十年第五月八日ノ回達ニ拠ル)

(d) 重大ナル教師ハ必ス證書ヲ有スルモノナルヘキコト(第四十三條ニ拠ル)

一千八百七十年発行ノ律例(其第百三十二條)ニ準拠シテ仮ニ證書ヲ受領セシ教師ハ其

齡二十五年ニ充サルマテ奉職スル所ノ學校ニ於テ第十七條(d)款ニ示ス所ニ由リ其職務ヲ奉スルモノト看做スヘシ(一千八百七十一年第三月二十日ニ発行セル草案ニ拠ル)

特別ノ夜學校ノ如キハ學生教師ノ教授スル所ニシテ是等ノ教師ハ唯單一ナル證書ヲ有スル時ハ則其職ニ從復スルコトヲ得ヘシ(第七十九條ヲ看ヨ)

(e) 統學院ニ申状ヲ呈進スルニ方リテハ教師タルモノ其學校ノ復務ヲ擔任セシ時日ヲ報知ス

ルヲ可トス然ル氏ハ統學院ニ於テ其日ヨリ起
算シ以テ給與金ヲ交給スヘキモノトス

(カ) 女兒ノ如キハ學校ニ於テ尋常ノ裁縫等ヲ教
授シ是等ノ夏業ヲ以テ亦教育中ノ一部トナス
ヘキト

(ク) 若シ幼稚ナル小兒ノ出校スル丁アル氏ハ必
ス其年齢ニ的當ナル方法ヲ以テ之ヲ教育シ決
シテ他ノ稍成長セシ兒童ノ教育ヲ妨害スル等
ノ丁アラシムヘカラス

(ク) 凡ソ入學スルモノ其二日ニ出校スルモノ、

姓名簿若クハ収入并ニ遺出ノ會計簿等ハ必ス
精密ニ之ヲ看記シ詳細ニ之ヲ計算セサルヘカ
ラス而シテ會計結算ノ呈狀及ヒ教師ノ性質品
行ヲ保證セル券看ノ如キ(第六十七條第七十七
條及ヒ第八十條ヲ參看スヘシ)確然信託スルキ
所ノモノトシテ之ヲ採用セラルヘキト
(シ) 學校ニ寄附スル給與金ノ收納票ニ信印スル
ニ方テハ則受領スル所ノ三人中ニ於テ特ニ其
一人ヲ擇ヒ之ヲ做サシムヘシ
特例 學務局ノ設立セシ學校ニ寄附ヲ為スニ

方テハ則該局中ノ管金者ヲシテ其收票ニ信印
 セシムヘシ
 第十八條 凡ソ寄附ヲ做サント欲スルニ方リ
 監察官ノ呈狀中ニ於テ重大ナル異論ヲ發見ス
 ル丁アレハ必ス暫時其給與金ヲ寄附スル丁ヲ
 廢止セサルヘカラス而シテ斯ノ如キ時ニ際シ
 テハ常ニ他人監察官ヲシテ第二回ノ監察ヲ做
 サシメ然ル後其寄附ヲ全ク廢止スル度ハ則特
 ニ其事情ノ如何ヲ記載スル所ノ草案ヲ作成
 スヘキモノトス

十日々學校ニ給與金ヲ寄附スル丁ヲ論ス
 第十九條 凡ソ校長タルモノ一年間ニ於テ午
 前及ヒ午後ヲ論セス四百回以上學校ヲ監臨セ
 シ所ノ人ハ第十三條ニ解明スルカ如ク其年末
 至リテ左ノ件々ヲ要望スルヲ得ヘシ
 A 其一年間學校ニ出席セシ生徒ノ額數ヲ平
 均シテ一生徒毎ニ必ス六シルリシダノ口稅ヲ
 課收スル丁
 第二十六條ニ拠ル
 B 又此學校生徒ハ其試業日ニ於テ一年間午
 前午後ノ會ヲ併セ二百五十回以上出席セシ度

ハ更ニ左ノ如ク決定スヘキヨ
一千八百七十年突行ノ條例ハ唯午前午後ノ
學校會ニ於テ二百會以上出席セシモノヲ計
算セリ而シテ今此數ヲ増加シ更ニ二百五十
回ト定ムル所以ハ「ホルステル」氏ノ「ガゾル」
ハルデ「イ」氏ノ間ニ答ヘシ「アル」ヲ以テナリ
其言ニ曰ク海港又ハ製作場又ハ首府又ハ村
所落ヨリシテ呈進スル所ノ統計表ヲ閱スルニ
試業ノ時ニ方テ出席スル生徒大概百中ノ八
十八皆其年ニ於テ二百五十回以上出席セシ

モ「タル」カ故ニ斯ノ如ク其數ヲ増加スルモ
決シテ障碍ナキモノナリトセリ
然ルニ此律例ハ一年間ニシテ甲ノ學校ヨリ
乙ノ學校ニ轉學セシ兒童ノ仮令兩學ニ出席
セシ全數ハ二百五十回ニ過クル「丁」アリト雖
凡其轉學セシ後ニ於テ出席ノ此數ニ及サル
凡ハ之ヲ処置スヘキ方法ヲ論スルニ至ラス
第一 若シ歳末ニ於テ滿四歳以上滿七歳以下
ノ兒童ナル「凡」ハ「第」十三條ヲ着ルヘシ則左ノ如

シ
成
七
歳

抑是等ノ學校ニ出席スルモノヲ平均シテ之
ヲ計算スルニ七歳以上ノ兒童ニシテ幼稚學
校ニ出席スルモノ太々衆多ナルカ故ニ七歳
以上ニ至ルトキハ速カニ之ヲ上等小學ニ轉
校セシムヘキモノニシテ其之ヲ轉校セシム
ル丁ハ監察官ニ委負シテ充分ニ注意セシム
ルヲ緊要ナリトスト魚氏必ス之ヲシテ幼稚
學校ニアラシムヘカラサル所ノ嚴密詳細ナ
ル規則ヲ制定スル丁アタハス
此條例ニ云フ所ノ十「シルリング」ノ口税ハ唯

小兒ヲ區分シテ教育スル時ニ課收セルノ三
即之ヲ詳説スレハ是等ノ小兒ヲ教育スルカ
為ニ特別ノ學室ヲ措造シ且其證看ヲ受有セ
ル所ノ教師ヲ任用スル氏ニ方テ之ヲ課收ス
ルモノナリ而シテ小兒ノ總數六十名ヨリ寡
少ナル氏ハ則其教師タルモノハ第六十條ニ
拠リテ仮ニ證書ヲ領スル所ノ學生教師ヲ用
井テ足レルモノトス
又八「シルリング」ノ口税ハ幼稚ノモノト雖氏
仍ホ他ノ稍成長シテ階級ヲ踏メル所ノ生徒

ト同一ニ教授スル氏ハ之ヲ課收スヘキモノ
トス而シテ斯ノ如キ時ニ在テハ第三十二條
之款ニ於テ示スカ如ク學校ノ生徒等ヲ調査
スルニ方テ是等ノ小兒ト雖氏必ス算入セス
ニハアラス

然ルニ第二十七條(九)款ニ拠レハ總テ小兒ノ
入學セル學校ニ於テハ必ス其年齡ニ的當セ
シ教育ヲ受ケシメ決シテ他ノ成長セシ生徒
ト混同シテ之ヲ教育スヘカラサルヲ以テ全
校ノ為ニ寄附シテ唯其小兒ヲ教育スルノ三

ニセサル所ノ給與金ノ如キハ其小兒教育上
ノ規則ニ善ク注意スルニアラサレハ意外
ノ不利ヲ醸成スルコトアルヘシ故ニ此條例ニ
準拠シテ寄附ヲ要望スル所ノ學校ニ於テ小
兒ノ數甚タ夥多ナルニ至ルハ則之ヲ教授
スルハ必ス彼ノ講學堂ト鄰接シテ相通スル
所ノ學室内ニ於テスヘシ且教師ヲシテ日々
時限ヲ制定シ其間ヲ以テ小兒ヲ教授シ以テ
直接ニ之ヲ監督セシムルモ亦仍ホ一個殊別
ノ學室ニ於テ之ヲ做サシメサルヲ得ス又斯

ノ如ク教師ノ直接ニ小兒ヲ教授スルハ他ノ
成長セル生徒ノ休課時間ニ於テ之ヲ做スヘ
キ所ノ時限表ヲ作成セシムヘシ而シテ其小
兒ヲ教育セシムヘキ為ニ採用セル所ノ學生
教師或ハ助教師タルモノハ其教育スル所必
シモ小兒ノミニ限ルニアラス須ラク他ノ稍
ニ成長セル生徒ノ通常教授ニ於テ盡カスル
コトアラシムヘシ
又一人ノ男教師ニシテ教授スル所ノ混合學
校ニ於テハ通常午後ニ女兒ヲ教授スル所ノ

裁縫教師ヲシテ午前ニアリテ小兒ヲ教育セ
ムヘキモノトス
小兒出校ノ~~定~~若シ三歳未滿ノ小兒出校ス
ルコトアルニ於テハ則亦其出校セシコトヲ記録
スルナカルヘカラス如何トナレハ斯ノ如キ
幼稚ナル小兒ト雖モ~~凡~~第十七条(ロ)款ニ於テ要
スル所ノ學校供給ヲ計算スルニ方リ然ニ第
三十二条(イ)款ニ於テ明示スル所ノ教師ノ負
額ヲ決定スル等ニ就テ必要ナル所アルコト以
テノ故ナリ

三歳以下ノ小兒ニシテ出校スル丁アル氏ハ
則一々之ヲ別記セサルヲ得ス是レ第十九章
条ノ每章ニ論セル給與金ヲ計算スルニ方リ
テ算入スル丁ナキモノナレハナリ然レ氏三
歳以上四歳未滿ノモノ、出校スル丁アル氏
ハ必ス之ヲ算入セサルヲ得ス則一ニハ第十
九条A款(出校者ヲ平均セシモノ)ニ云フ所ノ
寄附ヲ算定スル丁ニ於テ又二ニハ第十九条
B款第一ニ云フ所ノ口税ヲ制決スル丁ニ就
テ二百五十回以上出校セシモノヲ計算スル

アルヲ以テナリ
上ニ所謂小兒ナルモノモ斯ノ如キ給與金ヲ
寄附セラル、ハ必ス滿四歳ノ齡ニ達セサル
ヘカラスト虽氏前ニ示セル二百五十日以上
ノ出校ハ之ヲ做シ得ヘキモノナリ(一千八百
七十一年第五月八日ノ週達ニ拠ル)

甲 八「シルリング」
乙 十「シルリング」
是レ小兒ノ必要ナル器械ヲ備具シタル特別ノ
學室ニ於テ特ニ證書ヲ領有セシ教師ヨリ教育

セラル、時ニ於テノミ之ヲ課收スル所ノモノトス

第二十七歳以上ノ兒童ノ如キハ其試業ニ就テ
 十二「シルリング」ヲ課收スヘキモノトス(第二十八
 条ニ拠ル)而シテ其區別左ノ如シ
 四「シルリング」 讀唇ニ就テノ費用
 四「シルリング」 習字ニ就テノ費用
 四「シルリング」 算術ニ就テノ費用
 第二十条條 百五十回出校スルモノ(第二十三条
 ニ拠ル)モ亦試業ニ的當スルモノアリ即(4)半課

間出校スルモノハ為ニ設ケタル條例ニ準拠シ
 テ出校スル所ノ學生

統學院ヨリ一千八百七十二年第八月三十一
 日ニ於テ年々ノ給與金ヲ附與スル所ノ學校
 ニ於テハ僅ニ百回出校スルモノモ印刷所条
 例準拠シテ出校兒童ヲ試業スル方リ之ニ加
 入スヘキヲ確定セリ(一千八百七十一年第
 三月二十日ノ草案ニ拠ル)
 (8) 田舎ニ於テ入學スル所ノ十歳以上ナル兒
 童ノ隻ニ就テハ「ホルステル」氏云ヘル「アリ

曰ク余ハ田舎ト云フ語ヲ以テ兒童ノ父母タルモノ、唯農業ニノミ從事スルカ如キ地方ヲ称スルモノトス然ルニ此語ヲ以テ縣邑中ノ小市街ニモ亦適用スルナキニ非スト虽凡粟スルニ畢竟農業ヲ主トスル処ヲ唱フルモノナリ而シテ余ハ斯ノ如キ地方ノ十歳以上ナル者ヲ特別ニ之ヲ教育セシムルヲ欲ス然ル所以ノモノハ我輩ニ於テ若シ好機會ヲ発見スル氏ハ農業ヲ主トスル田舎間ノ兒童ノ為ニ作業ト學問トヲ以テ同時ニ教授スヘキ道理ア

ルヲ常ニ思考スレハナリ然ルニ給與ノ農夫及ヒ地主タルモノ、之ヲ予知スルアリテ既ニ自己ノ領地内ニ此道理ヲ適用スルモノアリ故ニ斯ノ如キ時ニ於テハ我輩ハ他人為ニ唯其規則ヲ作り以テ之ヲ補助スヘキモノナリトス

第二十一條 年中常ニ用フヘキ學校ノ時間表ハ第二十八條ニ所謂日用學教育ノ二個以上ノ特別ナル旨趣ヲ區分シテ層記スヘキモノトセリ

日々出校スル學生ノ為ニハ一個ノ旨趣毎ニ必
ス三「シルリ」ノ寄附ヲ課收スヘシ蓋シ斯ノ
如キ學生ハ其學ヲ所ノ一旨趣毎ニ必ス完全齊
整ナル試業ヲ受クルモノニシテ其詳細ハ定法
ノ第四ヨリ第六ニ至ルノ間(即第二十八條)ニ於
テ記載セル所ナリ
又某ノ學生アリ前年中ニ於テ文字并ニ技藝ヲ
主理スル局ヨリ既ニ同一ナル旨趣ニ就テ試業
サルトキハ此條ニ於テ一モ准許ヲ要望スル
ヲ得サルモノトス

文學規則書第五十章(一千八百七十一年第九
月ノ発行ニ係ルモノ)者ヨ其中ニ云ヘルコト
アリ曰ク「ホワイトホル」ノ統學院ヨリ一モ
補助ヲ受ケサル所ノ初學々校ニ於ケル其生
徒ニシテ新撰律例ノ定法第四ニ遵行セス并
ニ公立初學々校ヲ巡視スル「ウイクトリヤ」女
王ノ親遣セシ監察官ヨリ六箇月以内ニ於テ
同一ノ旨趣ヲ以テ試験セラレシナキモノ
ハ文學及ヒ技藝ヲ主理セル局ヨリ之カ試験
ヲ行フコトアラス

夜學校ニ給與金ヲ寄附スル丁(第百六款ヨ
リ百十二款ニ至ルヲ参考スヘシ)

第百七条ニ於テ解明スルカ如ク
夜學校ニ於テ一年間八十回出校セシ所ノ校長
ハ左ノ件々ヲ要望スルヲ得ヘシ(第百八条及ヒ
百九条ヲ參看スルヲ可トス)

(a) 一年中諸學生出校ノ總數ヲ平均セシモノ
ニ就テ一學生毎ニ四「シルリング」ヲ課收スヘキ
丁(第百九条ニ於テ)

(b) 一年間ニ五十回以上夜學校ニ通學セシ學

生ニ就テハ一頁毎ニ七「シルリング」六「ペンニー」
ノ金額ヲ試業ノ尺ニ於テ課收スヘシ(第百二十八
条ヲ看ヨ)是其讀唇ヲ為スニ就テニ「シルリング」
六「ペンニー」習字ヲ為スニ就テニ「シルリング」六
「ペンニー」算術ヲ為スニ就テニ「シルリング」六「ペ
ンニー」ヲ要スルカ為ナリ

一千八百七十二年ニ試業セシ夜學校ハ八十
回ノ學習ヲ減少シテ六十回トナシ學生出校
ノ定則五十回ヲ減少シテ四十回トナシ以テ
第百二十二条ニ示ス所ノ條規ニ適セシメシコ

ヲ統學院ニ於テ決定セシメアリ(一千八百七十一年第三月二十日ノ草案ニ拠ル)

出校ノ數ヲ計算スルモ

第二十三條 凡ソ午前午後ヲ論セス學校ニ出席シテ日用學ヲ教授セラル、所ノ學生ハ必ス二時間以上滞在シテ習學セサルモハ之ヲ出校セシモノト看做スヘカラス又夜學校ニ出席シテ日用學ヲ教授セラル、モノハ一時半以上在學セサレハ出校セシモノトシテ之ヲ計算スヘカラス

此章ノ旨趣ニ就テハ統學院ニ於テ左ノ如ク之ヲ制定セリ

遊戯ノ莫 新撰律例ノ第二十三篇ニ由テ定ムル所ノ日用學ヲ習學スヘキ時間ニ於テ遊戯ヲ做スヘキ期限ハ必ス其制定セル所ニ過クテアルヘカラス

第一 七歳以下ノ小兒ノ如キハ二時三十分以上ノ長キ習學ニ於テハ三十分時間トシ之ヨリ短キ習學ニ於テハ一時間ノ四分一即十五分時間トス

第二 七歳以上ノ兒童ノ如キハ三時間ノ習
 學ニ於テハ十五分時間トシ之ヨリ短キ習學
 ニ於テハ五分ヨリ乃至十分トス
 寺院ニ出席スル莫 新撰律例第二十三條ニ
 拠ルニ日用學ノ教授ヲ二時間連續セシムル
 ハ本邦ニ分校トモ同時ニ於テ皆之ヲ做サル
 ヲ得ス而シテ其同時ニ於テ之ヲ行フヘキ
 了既ニ確然決定シテ分明ナルニ至レハ則其
 兒童ヲシテ必ス一定セシ日ニ於テ寺院ニ出
 席セシムヘキ了ヲ定看スル所ノ時間表ヲ作

成スルヲ可トス然リト虽モ是其父母タルモ
 ノ、兒童ヲシテ之ニ出席セシムルヲ敢テ拒
 マサルモノ而已ニ限レリ而シテ左ノ件々ヲ
 了知スルヲ要ス
 第一款 斯ノ如ク寺院ニ出席スルト虽凡之
 ヲ以テ學校ニ出席スルト同一ニ看做シ之ヲ
 簿冊上ニ登録スル了アルヘカラス
 第二款 時間表ニ於テ學生中ノ一部分寺院
 ニ出席スル凡ハ他ノ剩餘シテ出席セサル兒
 童ヲ教授スル為ニ如何ナル規則ヲ定ムヘキ

等ノ夏ヲ明ニ指示スル所ナカルヘカラス
汝輩ハ一千八百七十一年第二月七日ノ草案
第五章ニ於テ要スル所ヲ判然記得スヘシ是
則第三款ノ由リテ生スル所ナリ
第三款 生徒ノ父母タルモノノ宗教上ノ礼拝
訓誨等ヲ其子ニ教授セラル、ヲ欲セサレハ
學校ノ形状ニヨリ斯ノ如キ生徒ヲシテ其宗
教上ノ諸夏ヲ教授スヘキ為ニ定メタル所ノ
時間ヲ以テ仍ホ日用學ノ教育ニ從夏セシム
ル丁アリトス

神歌ヲ養唱スル丁 我上帝ハ學校ニ於テ頌
歌ヲ謡フ丁ヲ許可スト且新定律例ノ第二
三条ニ於テ要スル所ノ如クニ時間連續シテ
日用學ニ從夏スル際ハ決シテ宗教上ニ関涉
セル礼儀ヲ行フヘカラス又宗教上ノ旨趣ニ
就テ種々ノ訓誨ヲ做スヘカラス
講讀スヘキ書籍 凡テ科目外各種ノ書籍ハ
之ヲ講讀スヘキヤ否ヤヲ決定セント欲スル
モノナシ但宗教上ノ訓誨ハ第二十三條ニ定
ムル所ノ如ク日用學ヲ講習スヘキ時間ニ

於テ一個ノ課程トシテ之ヲ教授スヘカラサルヲ以テナリ
抑我公會上院ハ公立初學校ニ於テ特別ノ課程看ヲ用フルトニ就テ異議爭論ヲ陳シ上訴スルモノアルモ之ヲ裁決スヘキモノトス
茅二十四條 兒童タルモノ某ノ熟練シタル良教師ニ隨從シテ操練ノ為メ出行スルカ如キハ
昼間學校ニ出席シテ習學セル他ノ生徒ト同一ニ之ヲ看做シテ可ナリ然ルト虽氏斯ノ如キトハ一週間ニ於テ二時ヨリ多カルヘカラス又一

年間ニ於テハ二十四週ヨリ多カルヘカラサルナリ
此条ハ操練ヲ以テ習學スル課業中ノ一ト看做シ隨テ之ヲ行フモ亦通常ノ習學時間中ニ於テスヘキモノトセリ蓋シ學校ノ會合ハ茅二十三条ニ拠ル都テ土曜日ノ午前ヲ以テ操練又ハ音樂ヲ做シ或ハ此ニ復テ共ニ習學スヘキ時間ト定ムルヲ可トス然レモ公會ノ上院ニ於テハ一回毎ニ一時間ヨリ永ク兒童ヲシテ操練ニ從復セシムヘカラサルト善ト

セリ

第二十五條 抑斯ノ如キ學校ニ於テハ既ニ十
八歳ヲ踰越セル生徒ノ仮令出校シテ習學スル
丁アリト雖モ決シテ之ヲ出校スルモノ、數ニ
算入スヘカラス且昼間ノ學校ニ於テ三歳以下
ノ稚童若クハ夜學校ニ於テ十二歳未滿ノモノ
出席スルモ亦之ヲ算入スヘカラス
第二十六條 決定セル時限間ニ出校セシ學生
ノ平均數ヲ知ラニト欲セハ須ラク其時限間ニ
於テ出校セル學生ノ總數ヲ合算シ又其時限間

教授セシ總數ノ和ヲ以テ之ヲ除スヘシ然ルモ
ハ其得數即出校セシ學生ノ平均數ナリ
第二十七條 出校スルモノ、平均數ヲ計算ス
ルニ方テハ唯半課ヲ習學スルモノ、出校數モ
亦他ノ全課ヲ習學スルモノ、出校數ト同一ニ
之ヲ算入スヘシ

第二十八條

試業法

定法第一

讀方 通常小學ニ於テ用フル初學讀本ヲ用井

一語ヲ綴ラシメ後ニ演説ヲ做サシムルヲ以テ
序トス

習字 翻行セシ定線ニ倣テ先ツ字体ヲ模寫セ
シメ又他ノ命スル所ヲ聴取シテ二三ノ普通ノ
語ヲ書セシム

算術 四位以下ノ單易ナル数ヲ加減セシメ且
ツ六ヲ以テスヘキ乗表ヲ誦セシム

定法第二

讀方 初學讀本中ノ簡短ナル章數ヲ採テ之ヲ
誦讀セシム

習字 同上讀本中ノ一文章ヲ用井徐ニ讀シ然
ル後更ニ一語毎ニ口授シテ之ヲ筆書セシム
算術 乘表并ニ簡單ナル除算ヲ以テス

定法第三

讀方 稍々高尚ナル讀本中ニ就キ簡短ナル章
句ヲ讀マシム

習字 同上書中ヨリ一文章ヲ採リ徐々一齊ニ
數語ヲ口授シ以テ筆記セシム

算術 大數ノ除算并ニ諸等ノ規則貨幣ナリヲ
試ム

定法第四

讀方 監察官ノ擇ニ應シ詩句若クハ散文數行ヲ誦セシム

習字 小學校初級生徒ノ用フル所ノ讀本ヨリ徐々一齊ニ數語ヲ口誦シ以テ聴知セシメ其文章ヲ書セシム

算術 諸等法ノ規則通常ノ衡量并ニ尺度ヲ以テス

公立初學々校ニ於テ教授スヘキ衡量并ニ尺度ハ只實際必要ナルモノニシテ譬ヘハ常

量金録室石藥核ノ外惣テ長キ尺度流動物ノ秤量皆之ヲ用フ

尺度時間表平方尺立方尺及ヒ工業上所用ノ尺度等是ナリ

定法第五

讀方 新聞紙或ハ他ノ近代ノ傳説ヨリシテ抜萃セル簡短ナル通常ノ章句ヲ以テス

習字 新聞紙中徐々一齊ニ數語ヲ口授スヘキモノ又ハ近代ノ傳説中ニ於テ簡短ナル通常ノ章句以テス

算術 貨物目錄ニ書スル所ノモノヲ算計セシ

△
小學校ニ於テ定法第五及ヒ第六試業ヲ受ク
ヘキ兒童ハ惣テ皆尺度ノ法則ヲ知り單位ノ
乗數或ハ累乘數ヲ作成スル方法ニ於テ同一
ノ有益ナル丁ヲ解明スルニ適ストス

定法第六

讀方 或書ヲ用井明亮ニシテ毫モ誤ル丁ナク
誦讀セシム
習字 簡短ナル題文或ハ書體或ハ容易ナル注
解文等ヲ寫サシム

算術 尋常ノ十數ヲ以テ加減スヘキ比例法并
ニ分數ヲ以テス
前ノ注解ヲ參考ス可シ

第二十九條 學生ノ再度試業ヲ受クルヲ得サ
ルモノハ左ノ等ニ屬ス

- (a) 下等ノ定法ニ屬スル者
- (b) 同一ノ定法ニ屬スル者

新定律例第二十八條ノ注解ヲ參看ス可シ
第三十條 一千八百七十三年三月三十一日後
ニ至リテハ昼間學校ニ於テ九歳以上ノ學生ト

又學校ニ於テ十三歳以上ノ學生トハ定法第一
ヲ以テ之ヲ試験ス可ラス
第三十一條 一千八百七十四年三月三十一日
後ニ至リテハ昼間學校ニ於テ九歳以上ノ學生
ト夕學校ニ於テ十四歳以上ノ學生トハ定法第
ニヲ以テ之ヲ試験ス可ラス

蓋シ律例書ハ毎歳必ス之ヲ公會議院ニ呈進
スルヲ以テ要ト為スカ故ニ其未夕實地ニ施
行サレサル以前既ニ將來ノ更ヲ考定スベキ
機會アルモノト云ヘシ

前ノ註解ヲ參看スヘシ

給與金ヲ減約スル更

第三十二條 給與金ハ左ノ各款ニ由リテ減約
セラル、丁アル可シ

(a) 其過多ナルニ由ル左ノ如シ

第一 月謝金學費稅寄附金ヨリシテ學校ニ收
納スル所多キ時

第二 出校ノ平均數ニ從ヒ學生毎二十五
リングノ税金ヲ課收スル時

第三 學校年々ノ定額金中尺一半ノ三費用ス

ル時

爰ニ所謂學校ノ費用ナルモノハ生徒ノ衣服
褒賞及ヒ通常學室修繕費用外學校家屋ニ就
テ生スル所ノ費用ノ如キハ之ヲ算入スヘカ
ラス

右三款ハ第十三条中説明スル年期ニ於テ算計
スルモノナリ

(乙) 教師タルモノ、教育訓導上完全ナラサル
所アルカ為メ或ハ六箇月ノ報告ノ後ニ校長タ
ルモノ、室屋内ニ缺遺スル所アリテ教授學習

ノ更ヲ妨害シ之ヲシテ完全ヲ得セシメサル
アルニ方リ之カ修繕ニ急タルカ為メ或ハ其書
籍地圖其他初學教育ノ為メニ必要ナル器具ヲ
準備スルヲナキカ為メ監察官ノ呈狀中ニ其陳
スル所ノ惣金額ノ十分一以上十分五以下ニシ
テ其費用ニ於テ毫モ不足ナキ時ニ在リ然ルニ
監察官タルモノ統學院ヨリ報告ヲ出スノ後六
月以外ニ於テ斯ノ如キ學校ノ形狀ヲ觀察シ其
呈狀中ニ云フ所ヲ實踐セサルヲ譴ムルハ
其次回ヨリ寄附ヲ減スルヲ可トス

(c) 出校スル生徒ノ平均數ニ就テ上等ノモノ
二十人ヲ除キ其餘四十員ノ生徒ハ一人毎ニ一
年間二十磅金ノ税ヲ收ムヘシ然レ其四十員
ノ生徒ヲ教授スル為メニ第七十條ニ示ス所ノ
約款ニ從ヒ年中學生教師ト為テ教授ノ職ヲ執
ルカ如キ丁アラサル時ニ於テノミトス又證書
ヲ有スル第四十三條ヲ見ヨ助教師ニシテ即第
七十九條ノ約束ヲ遵奉スル所ノモノハ一人ニ
シテ其権力二人ノ學生教師ニ同キモノトス
學生教師ノ如キハ試業ニ於テ誤謬スル丁アリ

ト雖其罰金二十磅ヲ減省シ只十磅金ヲ徵收
スヘシ然レ其力為メ一ノ證書ヲ作成セサル
ヲ得ス(第七十七條ヲ參看ス可シ)且ツ斯ノ如キ
學生教師ノ為メニ罰金ヲ減省スルハ只一回ニ
止マルヘシ決シテ學校ニ於テ連年續テ減省ス
ル丁アルヘカラス

(d) 一年中出校ノ平均數ニ從ヒ學生一人毎ニ
一「シ」ルリニグヲ課收ス但歌謡ヲ以テ通常教課
中ニ置サル時ヲ然リトス

第三十三條 最後ニ記スル所學校ノ定員ヲ算

定セシヨリ以來第三十九條ニ拠ル兒童ノ出校
スルモノ益々多キヲ加ヘ隨テ學生ノ為ニ費却
スルヲ増加セサルヲ得サル時ニ於テハ則第三
十二條ニ欸ニ謂ヘルカ如ク此寄附ヲ減省スル
コトアル可ラス

學校日誌

第三十四條 年々寄附ヲ受收スル學校ニ於テ
ハ校長タルモノ出校姓名簿ノ外ニ學校資金ノ
簿冊ヲ準備ス(第三十七條ニ欸ニ拠ル)即左ノ二簿
冊是ナリ

(a) 日誌

(b) 官状ヲ容ル、所ノ紙匣是レ其書状ヲ受取
スル毎ニ号數ヲ以テ一二三等ノ如ク順序ヲ記
シ以テ其受取ノ前後ヲ記ス

第三十五條 日誌ハ罰紙ヲ以テ之ヲ編ム紙數
必ス五百葉以上タルヘシ

第三十六條 教頭タルモノ一週間ニ一回此簿
冊ヲ調査シ之ニ平生尋常ノ夏及ヒ學校并ニ教
師ニ關係セルヲ登記ス假令ハ退職任職豫備疾
病等ノ了是ナリ其他後來照會スルニ必要ナル

モノハ惣テ記録ス

第三十七條 一般諸人ノ考察論說等ハ決シテ之ヲ此日誌ニ登録スルコトアル可ラス
第三十八條 一旦既ニ此簿冊中ニ登録スル条例ハ決シテ之ヲ除去變換スルヲ得ス之ヲ改正セント欲スレハ只後条ニ於テ其事ヲ録スヘキノ三

第三十九條 監察官ノ呈狀ニシテ統學院ノ之ニ記標ヲ加ヘシモノ、要畧書ヲ校長ノ手ニ傳與スルコトアルハ則其校長同語ヲ以テ之ヲ其

同誌中ニ模寫シ且ツ教師ノ永ク學校定負ノ中ニ在ルカ或ハ更ニ之ニ加入スルモノカ或ハ之ヨリ退去スヘキモノ、姓各位置何級ノ證書ヲ有スル教師何年ノ學生教師或ハ助教師ヲ記シ以テ監察官ノ呈狀ニ就テ統學院ノ裁決スル所ニ批准スヘキモノトス而シテ校長ノ通報者ハ其年學校ノ定負ヲ定ムル所ノ書冊ニ捺印スルヲ法トス

第四十條 凡ソ監察官ハ學校ヲ巡視スル毎ニ必ス其日誌ヲ調査シ其果シテ適宜ヲ得ルヤ否

ヲ上言スヘシ且ツ特ニ第三十九條ニ於テ記
 載セシ所ノ書冊ニ注意スヘシ蓋其書冊ハ學校
 ノ定負ニ於テ後未變換スル所アルヘキヲ預算
 スル所ノモノナリ而シテ更ニ其日誌中ニ校長
 ヲシテ注意覺知セシムヘキ所ノ條件ヲ記載シ
 以テソレヲシテ用意スル所アラントヲ得ヘ
 シ（第十二條ヲ參看スヘシ）

第二章
 前章ニ揭示セル教師ノ更ヲ論ス

第四十一條 上條明示セル教師者ノ等級ハ即

(a) 證書ヲ受クル教師 (b) 學生教師 (c) 助教師是
 ナリ（其業ヲ修シタル者ニ限リ）

第四十二條 只俗人（僧尼ニ對シ）ニ初學々校ニ
 於テ教師タルヘキ允許ヲ得ヘキモノトス

證書ヲ受クル教師ノ更（其業ヲ修シタル者ニ限リ）

第四十三條 教師タルモノ證書ヲ受得セニテ
 欲スレハ必ズ試業ヲ受ケサル可ラス（第四十四
 條ヲ參看スヘシ）且ツ學校ニ於テ實地ニ其職ヲ
 執リ以テ果シテ其任ニ堪フルヤ否ヲ試シテ得
 サルヲ得ス（第五十一條ヲ參看スヘシ）

試業ハ第五十條ニ於テ凡ソ種々師範學校ニ於テ試業ヲ
 第四十四條ニ凡ソ種々師範學校ニ於テ試業ヲ
 做スル毎年第十二月ニ於テ監察魚視ノ官吏ヲ
 遣シ之ヲ施行スルヲ法トスルニテ
 第四十五條 教師タラニテ希望スル所ノ男
 女ノ為メニ設クル試業ノ要旨ハ一々之ヲ統學
 院ニ請求シ然ル後之ヲ制定スルヲ得可シ
 第四十六條 試業ヲ受ケニテ欲望スル教師
 者ノ姓名ハ必ス其試業ヲ施行スル前第十月一
 日ニ至ラサル間ニ於テ其學校ノ校長ヨリ統學

院ニ上告スルヲ法トスルニテ
 第四十七條 凡ソ證書ヲ受クルカ為メニ試業
 ヲ受ケ以テ其教師職ヲラニテテ望ムノ人ハ必
 ス次款ニ謂フ所ニ適セサル可テス
 (A) 監察魚視ヲ受クル所ノ師範學校ニ於テ一
 年間住居セシ所ノ學生
 (B) 年々給與金ヲ受收スル初學々校ノ教師ニ
 シテ(第四條ヲ見ルヘシ)其齡二十歳ニ達シ且
 左ノ二款ノ一ニ適スルモノ
 第一 學生教師ト成リテ充全ニ其職ヲ成就ス

ル夏

城山藏

第二 監察官ヨリ善良ヲ稱スル呈状ヲ得ル夏
 第四十七條(八) 第五十九條ニ批准シ以
 テ教師ノ證書ヲ受クルトアルニ方テハ其第
 一ニ證書ヲ受クヘキ試業ヲ終リ第二ニ監察
 官ヨリ右ノ呈状ヲ呈スル(第五十九條ヲ參看
 スヘシ)月ヨリ以前ニ於テハ敢テ其學校ニ寄
 附ヲ贈ルヘカラス

第四十八條 試業ヲ受クルカ為メニ出席スル
 所ノ教師ハ其意ノ好ム所ニ從ヒ一年期ノ生徒
 タルヲ得ヘク又二年期ノ生徒タルヲ得ヘク
 適意ノ契紙ヲ受クヘキモノトス(第百二條ヲ參
 看スヘシ)

第四十九條 毎年教師タランコトヲ欲望シテ成
 功セシモノ、姓名ヲ揭示スル所ノ目錄ヲ作り
 之ヲ公発スルヲ例トス是ノ目錄ハ教師タラコ
 ト學フモノナルト真個ノ教師ナルトニ係ハラ
 ス惣テ四級ニ區分スルモノナリ
 第五十條 教師タランコトヲ欲望スルモノニ就
 キ各自學職ノ等級ハ試業スル所ニ拠リ其證書

城山藏

上ニ登記ス

試験

實際ニ於テ教授ノ任ニ堪フルヤ否ヤヲ試ミラル事

第五十一條 凡ソ證書ヲ得ニ_レヨ_ク欲望スルモノハ其試業ヲ受クルニ方リ能ク成功スルノ後教師ト為リ學校ニ於テ永ク其職ヲ奉シ然ル後監察官ヨリ二回ノ善良ナル呈状ヲ出タスヲ待タサル可ラス蓋シ此呈状ハ一年ヲ隔テ之ヲ附スルヲ法トス然ルニ此初回ノ呈状ヲ出タス_レ此證書ヲ望ム人ノ試業ヲ受ケテ教師ノ職ヲ執リシ以後僅カニ三月以内ニ於テスル時ハ則チ

二回ノ呈状ヲ出タスノ後更ニ一箇年ヲ過キテ第三回ノ呈状ヲ出タスヲ要ス而シテ若シ第二回或ハ第三回ノ呈状モ亦善良ナル時ハ則其人ハ證書ヲ受取スルヲ得ルヘキ人トス
第五十二條 實際ニ試験セラレテ其職ヲ執ル所ノ教師ハ學校ノ證書ヲ受ケシ教師ノ為メニ保持セラレサルヲ得サル所以ノ事情アリトス能ク之ヲ會得スヘシ

證書

第五十三條 證書ニ三等アリ然レ_レ通常附與

スル證書ハ只二等ニ止マル第三等即最下
等ノ證書ハ小兒ノ教師ニシテ學校教師ノ為
メニ特別ニ附與スルモノヲ云フ

第一等及第二等ノ證書

第五十四條 凡ノ證書ヲ望ム人ニシテ上三級
ノ試業第四十九條ヲ參看ス可シヲ受クルモノ
ハ必ス第二等ノ證書ヲ受クルヲ得ヘシ而シテ
其後善ク其職ニ堪フルヲ認知セラル、ニ至
ルニ及ニテ始メテ第一等ノ證書ヲ受クルヲ得
ヘシ

第五十五條 第二等ノ證書ハ附與セシ日ヨリ
十年ノ間最モ有用ナルモノトス而シテ十年ヲ
過クルノ後ハ其年限中ノ呈狀參看スルカ為メ
ニ更ニ之ヲ再查ス可シ

第三等ノ證書

第五十六條 第四級ノ試業第四十九條ヲ參看
スヘシヲ受ケ之カ證書ヲ望ム人ハ必ス第三
等ノ證書ヲ受ク可シ
第五十七條 第三等ノ證書ハ教師ヲシテ學生
教師ノ責任ヲ負ハシメス

第五十八條 第三等ノ證書ハ試業ヲ為スニ非
 サレハ決シテ交付スヘカラズ
 第五十九條 一千八百七十三年第十二月三十
 一日以前三年間ハ監察官ノ呈狀ニ從ヒ次ニ揭
 示スル歎々ヲ完全成就スル教師ノ為メニ別ニ
 試業ヲ為スナク第三等ノ證書ヲ付與スヘシ
 第四十七條ノ歎ノ注解ヲ参考スヘシ
 第一ノ斯ノ如キ教師ハ監察官ノ呈狀ヲ具スル
 時ニ必ス左ニ謂フ所ニ適スヘキ度
 (a) 五年齡三十五以上ノモノ

(b) 十年間以上初學々校ノ教師タリシモノ
 (c) 其學校ノ校長ヨリ既ニ其性質品行ノ良善
 ナルヲ保證スル所ノ證書ヲ受クルモノ
 第二 監察官ヲシテ左ノ歎々ヲ上申セシムル
 ニ適スル者
 (a) 其人ノ確實ナル教師タル事
 (b) 其人ノ教授スル學校ニ於テ學習スル三十
 人以上ノ兒童ハ前六月間ニ於テ各自別ニ二試
 業セラレシ事
 嘗テ統學院ヨリ布達スルヲアリ其旨意左ノ

如シ試業スヘキ兒童ノ數ニ就テ此条ニ於テ
要スル所ニシテ益々多キヲ以テ善トスル所
定負ハ決シテ之ヲ省減スヘカラズ是レ只試
業ヲ行ハスシテ證書ヲ得ニ了ヲ要求スル教
師ノ為メニ其材能技倆ヲ昼スヘキ廣大ナル
學校ニ於テ其職ヲ執ル時ニ不熟ナル了ナカ
ラニテ欲シ斯ク確定スルモノナレハナリ
○是等ノ學生ハ其二十人以上讀方習字算術
等ニ於テ第一定法以上ノ試業受クヘキモノト
ルヘキ事

前ノ注解ヲ參看ス可シ
只小兒七歳以下ノモノノ三出校スル所ノ學校
ニ於テハ第五十九条第一(a)款ニ謂フ所ノ教師
ヲ任用スルニ方リ既ニ三十歳ニ達スル時ハ之
ヲ採用スルヲ得可シ而シテ第五十九条第二(b)
款ニ言フ所ハ必スシモ適用スルヲ要セス
第六十條 學生教師ノ證狀ヲ有持シテ其職掌
ヲ完全ニ成就セシモノハ監察官ノ為メニ特別
ニ称擧セラレ又ハ其最後ニ試業セシ時ノ書類
ヲ案セラレ、ニ由リ假リニ第三等ノ證書ヲ得

テ年々出校スル生徒ノ平均數六十員ニ過キ
ル學校ニ於テ直クニ教師ノ職ヲ擔當シ教授ニ
從事スルヲ得ヘシ
一千八百七十年発行ノ律例(第百三十三條ヲ
見ルヘシ)ニ拠リテ假リニ證書ヲ受クル教師
ハ其滿二十五年ノ齡ニ達スルマテ其當時奉
職スル學校ニ於テ新定律例第十七條(乙)款ニ
拠準シテ採用セラル、モノトス(一千八百七
十一年第三月二十日ノ草案ニ拠ル)
第六十一條 斯ノ如キ教師ハ既ニ滿二十五ノ

齡ニ達スレハ其受クル所ノ假證書ヲ以テ更ニ
真正永續ス可キ證書ニ交換スルヲ要ス(第四十
三條ヲ參看スヘシ)然ラサレハ其假證書ハ終ニ
塗抹廢却スヘキモノトス
第六十二條 假證書ナルモノハ只之ヲ統學院
記録簿中ニ書シ其學生ノ姓名ヲ登記ルニ過キ
サルモノニシテ真個ノ證書ヲ交付スルニ及ラ
ズ
即今現在ノ證書ヲ算計スル事
第六十三條 即今現在ノ第一等第二等ノ證書

ハ惣テ之ヲ第一等ノモノト見做シテ算計スル
シ
第六十四條 又現在ノ第三等證書及ヒ第四等
上部ノ證書又第一等小兒學校ノ證書等ハ惣テ
之ヲ第二等ノモノト見做シテ算計ス而シテ斯
ノ如キ證書ハ之ヲ発行セシ時或ハ最後ニ調査
セシ時ヨリシテ十年ヲ過クルノ後更ニ再ヒ查
閲スルヲ法トス
第六十五條 即今ノ第四等下部證書及ヒ小兒
學校第二等ノ證書ハ皆第三等ノ證書ト見做ス

テ算計ス可シ
第六十六條 其未タ付與セサル證書ノ等級ハ第
五十四條及ヒ第五十六條ニ據リテ確定スルヲ
法トス
校長及ヒ監察官ノ呈狀
第六十七條 校長タルモノハ年々教師ノ性質
品行及ヒ其職掌ニ注意スルノ至レルヤノ否ヲ
登録上言セサルヲ得ス
第六十八條 監察官ハ其巡視點檢スル各學校
ニ於テ處置規則教授方ノ確實ナルト否ヲサレ

トヲ呈進上言ス可シ
第六十九條 凡ソ證書ハ第六十七八兩條ニ依
リ時トシテ還上セシムルコトアルヘシ又廢止セ
ラル、コトアルヘシ又變換セララル、コトアル可キ
モノトス

學生教師

第七十條 學生教師ナルモノハ次條ニ謂フ所
ニ遵守シ童男童女ニシテ學校教師ノ職ヲ執ル
モノヲ云フ其遵守スヘキ款ハ左ノ如シ
(a) 其學校ニ就テ監察官ノ呈申スル所ヲシテ

左ノ如クナラシムルモノ之ニ副フ

第一 適當ナル證書ヲ受ケシ教師ノ統轄ニ係

ルコト(第四十三條及ヒ第五十七條ヲ參看スヘシ)

第二 適宜ノ地ニ於テ立校スルコト

第三 書籍器械等ヲ善ク充分ニ供給備具スル

度

第四 適當ノ処措ヲ得テ巧ニ教授セララル

度

第五 良善ナル規則アル事

第六 教授ニ從事スル時限間善ク保護整治セ

ラル、夏
(b) 其職ヲ執ルノ日ニ方リ滿十三年ノ齡ニ達スル夏

(c) 斯ノ如キ教師ハ其為メニ指揮セラル、所ノ教師男子ナル時ハ則チ男子ナルヘク若シ女子ナル時ハ則チ亦女子ナルヘキ事然レテ混合學校ニ於テハ女子ノ學生教師ニシテ男子教師ノ指揮ヲ受ケ且ツ學校ニ於テ學習スヘキ時間ヲ了ルノ後男子教師ヨリ教授ヲ受クルヲ得依テ校長ノ認許シ貴フヘキ婦人ノ如キハ斯クノ如

キ教授ヲ受クル時ニ方リテ始終変更ナク出座スルモノタリ

(d) 監察官ノ報告中所定ノ時ト地トニ於テ試業ヲ受クルガ為メ其監察官ノ前ニ出座スル事
(e) 試業ヲ受ケ附加条目第一ニ詳説セル證書ヲ受クル夏

(f) 此律例第二附加条目所載校長タルモノ、予簿ノ語ニ一致同意スル夏蓋シ斯ノ予簿ノ寫本ハ統學院ヨリ認許セラレ各教師タランヲ望ム人ノ為ニ校長ニ寄贈スルモノナリ

師ニ從ヒ助力教授ス可ラサル夏(此条ハ一千八百七十三年四月一日以後所用スルモノトス)第七十一條ニ統學院ハ教授ニ從吏スルモノノ職業ニ就キ關係スル所アル可ラス只學生教師ノ教授ニ從事スルヲ准許シ且ツ毎年其職業ヲ終ル時ニ於テ左ノニ款ニ適スルヤ否ヤヲ察スルノ三
(a) 上条ニ云ヘルカ如キ試業ハ監察官ノ目前ニ於テ施行サルヤ

(b) 上条ニ云ヘルカ如キ證書ハ校長及ヒ教師ノ作成スル所ナルヤ
第七十二條 教授ノ職務ニ就テハ何等ノ疑案ニ於ケルモ必ス統學院ニ關係セサルヲ得ス然レモ其統學院ニ於テ決定スル所ヲ以テ人皆確實ナリト做シ之ニ同心一致スルヲ書記スル時ニ於テノ三ナリ若シ斯ノ如クセサル時ハ某賃借ヲ為シ又ハ其他ノ締約ヲ為ス時ノ如ク別ニ確定スル所ナカル可ラス
第七十三條 其年ニ於テ學生教師ノ職ニ缺負

アルコアリト虽氏(第十三条ヲ参看ス可シ)次回
監察官ノ試業ヲ為ス時ニ至ルマテ必ス其欲ヲ
補フコトヲ得ス
第七十四條 斯ノ如ク缺員ニ補セラレコトヲ
欲望スル人ハ必ス先ツ假リニ助教ノ職ヲ執リ
以テ教授ノ業ヲ習ハサルヲ得ス而シテ監察官
人呈状ヲ試験シ了スルニ至ルマテ統學院ニ於
テ手簿(第七十条款)ヲ校長ニ寄贈スルコトヲ為サ
ス

第七十五條 第七十四條ニ拠リ其年ニ於テ學

生教師ノ欠員ヲ補スルカ為メニ一時假リニ助
教ノ職ヲ執ルモノ(第十三条ヲ参看スヘシ)若シ
左ノ款ニ遵守スル時ハ則是レ第三十二條ノ
C款ニ適當スルモノトス

(a) 學生ノ員數ニ比例シテ必要ナル教師ノ人
員ヲ完全ナラシメンカ為メ其職ヲ欲望スル人
ヲシテ永久ニ教授ノ職ニ從事スヘキ給與ヲ受
ケシメンヲ欲シ次回試業ヲ行フニ當リ其試験
ヲ受ケシムル是ナリ

(b) 統學院ニ於テ斯ク欠員ヲ生スルコトヲ適

當ナリト見做ス凡初テ此款負アルトナス
第七十六條 第七十五條ニ示スカ如キ更情ニ
際スルニ非ラサルヨリハ其年ニ於テ學生教師
ノ欠負ハ第十三條ヲ參看ス可シ只第三十二條
C款ニ謂フ所ノ罰鍰ヲ徵收シ以テ之ヲ償フヲ
可トス
第七十七條 教師タルヘキ准許ヲ得ニ了テ欲
スル人ニ於ケル又毎年假リニ教授ノ職ニ從事
スル學生教師ノ權力及ヒ證書等ノ事ハ此律例
ニ附録セル附加條目第一ニ之ヲ詳ニス

職務ヲ全フセシ學生教師

第七十八條 凡テ學生教師ハ其職務ヲ全ク成
就シ期限盡クルニ至レハ更ニ其職業ヲ撰擇ス
ル了自由隨意ナルヘシ其人若シ永ク教授ノ隻
ニ其身ヲ委セニヲ欲スレハ則初學々校助教師
ト為ルヲ得ヘク(第七十九條ヲ參看ス可シ)又師
範學校ニ入學セニカ為メニ試業ヲ受クルヲ得
可ク(第九十一條ヲ參看ス可シ)或ハ直チニ一小
校ヲ擔當シテ之ニ訓導タラニカ為メニ假リニ
證書ヲ受クルヲ得ヘシ(第六十條ヲ參看ス可シ)

助教師

第七十九條 學生教師ノ證ヲ以テ其職ニ從
シ能ク其職務ヲ全クセシモノニシテ師範學校
ニ入學セシムルヲ欲望シ第九十一條ニ論スル所
ノ試業ヲ受ケ善ク誤ラサルモノハ(第九十四條
ヲ參看ス可シ)真ノ助教師ニ補任ス而シテ後又
毎年ニ試験ヲ受クルヲ要セス
第八十條 斯ノ如キ助教師ニシテ或ハ監察官
ヨリ其任ニ堪ヘサルヲ上告シ或ハ其學校ノ
校長教頭等ヨリシテ學生教師タラシムルヲ欲スル

モノト同一ニ其品行ト職務ニ盡カスルト又其
人ト為リ從順ナルヲ保證スル所ノ證書ヲ得
サル時ハ則チ第九十二條ニ款ニ謂フ所ニ依リ其
職ヲ執ルヲ得サシム

第八十一條 某年ニ於テ某學校ノ助教師退職
シ故ヲ以テ缺員ヲ生スルヲアルニ方テハ(第十
三條ヲ參看ス可シ)則チ第七十四條第七十五條ニ
依リテ一時假リニ教師補ヲ命シ或ハ第九十九
條ニ從ヒ適當ナル他ノ助教師ヲ任用スルニ由
リ之ニ補任セシム

第八十二條 助教師ナルモノハ其職ニ従事ス
ヘキ時間ト其給料トニ就テ校長ト約束ヲ做シ
以テ之ヲ定ム

(c) 助教師ハ其確然補任セラレ統學院ノ允許
ヲ受ケシ日ヨリシテ學校定員ノ一トシテ算入
セラルヘキモノトス(第九十九條ヲ参考ス可シ)

第二師範學校

第一章

第八十三條 師範學校トハ則チ下ニ謂ヘルカ
如キモノヲ惣稱ス

(a) 初學々校ニ於テ教師タラニトテ欲望スル
人ヲ衣食ニ寄宿セシメ之ニ教授スル所ノ學校
ヲ云フ

(b) 斯ノ如キ人ノ其職業ヲ實地ニ修業セシム
ルモノナリ

第八十四條 師範學校ニ寄附ヲ為スハ只統學院
ニ於テ其地ノ形状ト管理ノ方法及定員ノ多寡
トヲ檢シ果シテ寄附スルノ可ナルヲ視ル氏ニ
ノ三之ヲ為スヘキモノニシテ若シ然ラサル時
ハ決シテ寄附スルヲ得サルモノトス

第二章

師範學校ニ附與スヘキ寄附金ノ事

第八十五條 凡師範學校ニ例年ノ寄附金ヲ附與スルハ尚之ヲ他ノ公立初學々校ニ寄附スル時ノ如ク同一ノ方法ヲ用フ可キモノトス

第八十六條 各學校ノ納金簿冊中ニ記録スル所ノ寄附金ハ男子ノ學生一員毎ニ百^ポニド金女子ノ學生一員毎ニ七十磅金ヲ法トス蓋シ斯ノ如キ男女ノ學生ハ一千八百六十二年第十二月以來教育セラレテ左ノ歟^クヲ成就セルモノ

ヲ云フ

(a) 前ニ記スルカ如キ實地試業ノ時期ヲ完了スレハ(第五十一條ヲ参考ス可シ)則チ公立初學々校或ハ師範學校ニ於テ教師タルヘキ證書ヲ受クルニ適當ス

(b) 陸軍海軍等ノ初學々校ニ於テ又ハ(大不列顛國ノ)濟貧學校勳競學校或ハ犯人ヲ教誨改心セシムル為メニ設クル學校ニ於テ教師ト為リ善ク其職務ヲ盡シ以テ期年ヲ了ルルハ其從吏ニシ場慶ヨリシテ上告スルヲ例トス

第八十七條 只一年間其業ヲ演習スル教師
ハ再々實地修業スルノ後始メテ證書ヲ受ル
得ヘシ(第五十一條ヲ見ルヘシ)又他ノ教師ト
同一ノ約束ヲ以テ任シ本院ヨリ之ヲ上告スル
トアリトス而シテ斯ノ如キ人ノ教誨セラル、
學校ニ於テハ第八十六條ニ詳ニスル定額金
ノ一半ヲ支附スルヲ適當トス但左ノ款々ニ
背馳セサル時ニノミ然リトス
(4) 一千八百六十四年一月一日前既ニ其演
習ヲ卒リシ時是ナリ

(6) 又斯ノ如キ人ノ左ノ二款ヲ能クスルニ由
リ小兒ノ教師タル時是ナリ

第一 從來統學院ニ於テ教師ヲ教誨スヘキ學
校ト認知スル所ノ學校ニ於テ教師ノ職業ヲ演
習シ完全特別ノ教育ヲ受クルモノ
第二 小兒ノ學校ニ於テ實地ノ教授ニ慣習
ルモノ

第八十八條 又第八十六條ニ詳説スル定額ニ

第八十八條 又第八十六條ニ指シタル支障
あり

第二 小學校ノ修業ニ於テ實地ノ修業ニ對シテ
修業ノ全課程ノ修業ヲ受ケルニシテ
第一 修業ノ修業ニ於テ修業ノ修業ニ對シ
小學校ノ修業ノ修業ニ對シ
又修業ノ修業ノ修業ニ對シ

半セル寄附金ハ一千八百七十年一千八百七十
一年及ヒ一千八百七十二年ノ間ニ於テ第九十
三條ノ(6)款ニ謂フ所ノ師範學校ニ入學スルヲ
許サレ該學校有司ノ准許ヲ受ケテ只一年間其
學校ニ住居スルノ後直ニ教師ノ職ヲ執ルニ足
ルヘキ教師ヲ教ユル學校ニ寄附スルモノニシ
テ其簿上ニ登録スヘキモノナリ
第八十九條 各學校ニ寄附スヘキ例年ノ給與
金ハ必ス其學校ノ簿上ニ記載スル所ノ金額ニ
照準シテ之ヲ交付ス可シ(第八十六條ヨリ第八

十八條ニ至ルマテヲ參看ス可シ決レテ左ニ云
フ所ニ過スヘカラス
(a) 一年間學校ニ於テ費却スヘキ費用ノ百中
ノ七十五トス是レ其管轄者ノ要望スルノ方法
ニ適スレハナリ
(b) 凡ソ一個ノ男子生徒ニ就テハ五十磅金及
ヒ一個ノ女子生徒ニ就テ三十五磅金ヲ給スヘ
キ年限間常ニ演習教授セラル、為メニ寄寓ス
ル所ノモノニシテ女王ノ學生(第九十六條ヲ見
ルヘシ)タルモノ、為メニハ此五十磅三十五磅

金ヲ以テ定額トナス
第九十條 各學校ニ交付スル例年ノ給與金ハ
次条ノ如キ方法ヲ以テ之ヲ交附スルヲ可トス
(a) 一年間常ニ演習教授セラル、為メニ寄寓
スル女帝學生ノ各負ニ就キ十二磅金(男子ノ為
メ)或ハ八磅金(女子ノ為メ)ノ賦金ヲ交與ス但三
月一日及ヒ九月一日ニ於テス
(b) 其餘金ハ統學院ヨリ其年ノ學校出納簿ヲ
結算檢査シ且之ヲ批准スルノ後直チニ全給ス
ルヲ法トス

第三章

師範學校ノ入學ヲ許可スル事

第九十一条 凡ソ師範學校ニ入學セシムルヲ欲
望スル人試業ハ年々證書ヲ與フル為メノ試業
第百条ヲ參看ス可シヲ做シ其後ノ一週間即十
二月ニ於テ各學校皆之ヲ施行スルヲ可トス
第九十二条 試業ハ惣テ學生教師ノ職務ニ就
テ必要ナル趣旨ヲ用フ可シ
第九十三条 教師職ヲ欲望スル人ハ師範學校
主務官吏ノ為メニ撰舉セラレ且ツ試業ヲ受ツ

ルヲ給與ス而シテ統學院ノ之ニ關係スルハ
只此教師職ヲ欲望スル人ノ左ノ諸款ニ適スル
時ニアルノニ

(a) 第八十六条中(a)或ハ(b)款ノ約束ニ從ヒ其
從來セシ學校教師ノ職掌ヲ擔當シ之カ教授ヲ
任セシムルヲ欲望スル時

(b) 學生教師ト為リテ善ク其職務ヲ成就完了
セシ時

(c) 學生教師ト為ラスト呈尺試業ヲ受ルヘキ
月ノ翌月即一月ノ一日ニ於テ十八歳以上ノ齡

ニ達セシ時

第九十四條 成功セシ入學志願ノ人ハ其學業ノ甲乙ニ從ヒ之ヲニ級ニ分ツ

第九十五條 師範學校ノ有司ハ第九十四條ニ從テ入學ヲ許スニ足ルヘキ學業アルモノヲ入學セシム蓋之ヲ統學院ニ上言ス可シ
第九十六條 斯ノ如キ志願人ハ既ニ入學ヲ許可セラル時ハ之ヲ称シテ女帝學生ト名ツハキ
元ノトス

第九十七條 其未タ入學ヲ許可セラレサル前

必ス左ノ歎々ナカル可ラス

(a) 師範學校ノ醫官タルモノ其身躰健康ニシテ決シテ瘵疾不具ニ陥ルヘキ疾ヲ生スル等ノ患ナキヲ確證セシムハアラス

(b) 此入學志願ノ人ハ第九十三條(a)歎ニ照準シテ其志ヲ示ス所ノ書面ヲ作り之ニ捺印セシム

第九十八條 學校ノ有司ハ斯ノ如キ人ノ學習期限ヲ定ムヘシ

第九十九條 凡ソ斯ノ如キ學生ノ此學校ニ入

學スルニ方リテ其信印セシ約束ノ条々ニ於ケル果シテ實ニ履行セサル丁アリテ其學校ノ有目タルモノ之ヲ発見證明スルヲ得統學院ニ上告スル片ハ統學院其斯ノ如キ人ノ為メニ教師ノ證書(第五十三條ヲ參看スヘシ)ヲ交付ス又斯ノ證書ヲ受クルカ為メニ實地ニ其業ヲ演習スルヲ(第五十一條ヲ參看ス可シ)許サス

第四章

師範學校學生試業ノ事

第百條 師範學校寄宿ノ學生ヲ試業スルハ慶

々ノ學校必ス皆十二月ニ施行ス可シ而シテ斯ノ如キ試業ヲ始ムヘキ定日ハ毎年之ヲ要畧書第四十五條ヲ參看スヘシト為シ開板スルヲ可トス

第百一條 凡ソ學生ハ其入學ノ日ニ於テ第九十三條ニ謂フ所ヲ完了シ且ツ滿一年間寄宿勉學セシモノニ非サレハ斯ノ如キ試業ニ出頭ス可ラス又斯ノ如キ學生ハ脱漏ナク出頭セスンハアラス

第百二條 凡ソ學生受クル所ノ試業ハ其男々

リ女タル其寄宿以後滿一年ヲ經ルト滿二年ヲ
經ルトニ由テ自ラ異ナル所アルヘキモノトス
第百三條 女學生初年ノ試業課題ノ要略書中
ニハ小兒ノ教師タルヘキ為メニ特別ノ趣旨有
リ而シテ斯ノ如キ有旨ノ試業ヲ受ク小兒學校
ニ於テ實地ノ演習(第五十一條ヲ參看ス可シ)ヲ
完全成就セシ人ハ則特ニ其更ヲ登記捺印スル
ナリセシ證書ヲ受收スヘシ

第百四條 全二年間演習ニ從事シ能ク教授ノ
更ニ熟練セシ學生モ亦其事ニ登記捺印スセシ
所ノ證書ヲ受收スルヲ得ルモノトス
第百五條 當初年間寄宿スルノ後試業ヲ受ケ
第百四級ニ中ル所ノ學生ハ第二年ノ後再ヒ試業
ヲ受ル時ニモ尚初年ト同一ナル趣旨課題ヲ以
テ試ムヘシ

第百三特別款條

夜學校學生

第百六條 約束ヲ以テ年々監察ヲ受クヘキ第
十一条ヲ參看スヘシ學校ノ校長ハ其統轄スル
夜學校學生ノ試業ヲ行フノ為メニ二月一日前

該地方ノ監察官ニ書ヲ贈リ其監察ヲ請フコト
ル可シ

第百七條 其學校ニ在ル夜學生ニ就テハ毎年
只一回之ヲ試業ス而シテ三月一日ヨリ四月三
十日ニ至ルマテノ間之ヲ以テ之ヲ施行スルヲ
法トス當日ハ監察官之ニ臨席ス然レ凡是レ只
此學校ニ於テ最初ニ試業ヲ行ヒシ以來再ヒ試
業スルニ適當ナルヘキ時日ヲ經過セシ時ニ於
テノ三十日ス

第百八條 夜學校ト昼間學校ト兼合スル時ハ

則其夜學生ノ試業ニ就キ寄附スル所ノ給與金
ハ該校例年寄附ノ給與金ノ一部トス(第十三條
ヲ参考スヘシ)

第百九條 夜學校ト昼間學校ト連合セサル時
ハ則四月三十日ヲ過クルノ後速ニ其給與金ヲ
寄附ス可シ是レ斯ノ夜學校ニ於テハ毎年四月
三十日ヲ以テ其學校一期年ノ終リト做スカ故
ナリ

第百十條 監察官ハ各種學校ノ夜學生ノ為メ
ニ利便中央ノ地ニ於テ試業ヲ行フヘキ次序ヲ

整定スルコトアル可シ
第百十一條 二十人以上ノ學生監察官ノ監察ヲ受ケテ試業サル、ニ非サレハ決シテ學校ノ為メニ特別ナル試業ヲ行フヘカラス若シ試業サルヘキ學生二十人ニ下タル時ハ則須ク集合試業ヲ行フ可シ(第百十條ヲ參看ス可シ)或ハ昼間ノ學生ト同時ニ於テ試業スルモ亦可ナリ
第百十二條 監察官ハ自ラ試業ヲ監察スルコトアリ又ハ統學院ヨリ准許スル所ノ補助監察官ニ命シ全ク之ヲ任セシム

第三篇

律例復闕

第百十三條 凡統學院ハ事情ニ由リテ律例中ノ條款ヲ廢止スルヲ得ヘク又改正スルヲ得ヘク或ハ新條ヲ增加作成スルヲ得可シ然レ凡之ヲ公會議院ニ呈シテ一月間以上之ヲ兩議院ノ案上ニ列スルニアラサレハ決シテ之ヲ實地ニ施行スルヲ得ス

第百十四條 凡ソ律例ハ毎年出版スヘキモノニテ而シテ之ヲ出版スル時ハ前ヲ出版セシモノ

スルコトアル可シ
 十一條 二十人以上ノ學生監察官ノ監察
 ケテ試業サルハニ非サレハ決シテ學校ノ
 ニ特別ナル試業ヲ行フハカラス若シ試業
 ヘキ學生二十人ニ下タル時ハ則復ク集合
 ヲ行フ可シ(第百十條ヲ參看ス可シ)或ハ昼
 學生ト同時ニ於テ試業スルモ亦可ナリ
 十二條 監察官ハ自ラ試業ヲ監察スルコ
 又ハ統學院ヨリ准許スル所ノ補助監察官
 ニ全ク之ヲ任セシム

三篇

律例復闕

十三條 凡統學院ハ事情ニ由リテ律例中
 款ヲ廢止スルヲ得ヘク又改正スルヲ得ヘ
 ハ新條ヲ增加作成スルヲ得可シ然レ凡之
 會議院ニ呈シテ一月間以上之ヲ兩議院ノ
 ニ列スルニアラサレハ決シテ之ヲ實地ニ
 スルヲ得ス
 十四條 凡ソ律例ハ毎年出版スヘキモノ
 而シテ之ヲ出版スル時ハ前ヲ出版セシモ

第百一十條

ノ、条ヲ廃止改正シ又ハ新条ヲ増加スルカ如
キ必ス其条々ヲ明瞭表示ス可シ而シテ公會ノ
會合以後一月ヲ過キサルニ及テ兩議院ノ書案
上ニ之ヲ呈進セサルル可ラス

内閣議會々長 「リッポニ」

教育主務内閣議會委員副 信印

長 「ウヰルレムエトワイトホ」

ルステル

一千八百七十二年二月六日

統學院

第十附加條目

終